

令和4年度第2回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：令和4年11月29日（火）13時～15時

場所：高松市立みんなの病院 みんなのホール

（オンラインによる開催）

【出席者】

（委員） 会長 谷田 一久（株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表）

副会長 伊藤 輝一（一般社団法人高松市医師会 会長）

二島 多恵（公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表）

藤田 徳子（株式会社フェアリー・テイル 代表取締役）

和田 頼知（和田公認会計士事務所 公認会計士）

（事務局）市職員 25名

（傍聴者）なし

開会 13:00～

1 病院事業管理者挨拶

本日は、ご多用中にも関わらず、令和4年度第2回高松市立病院を良くする会に御出席を賜り、感謝している。また、日頃より御助言、御指導いただき、重ねてお礼申しあげたい。

御存知のように、現在、新型コロナウイルス感染症は、全国同様、香川県においても、第8波と言うべき感染拡大が続いており、年末にかけて、より一層、感染対策を継続する必要があると感じているところである。当院においても、継続的に職員の感染も発生し、限界に近い状態で診療を続けており、現在の国の経済対策と現場の医療とはかなり乖離している状況だと感じている。このような状況を踏まえ、今回もWEBでの開催とさせていただいた。対面でないことで、深い話がしづらいが、何卒よろしくお願ひしたい。

さて、今回の高松市立病院を良くする会は、前回の自己評価について、委員の方々からの総合評価をいただくことになっている。新たな公立病院経営強化ガイドラインが発表され、現在、策定に向けて、当院も取り組んでいるところであるが、今回示された、地域の医療機関との「機能分化・連携強化」については、当院は既に取り組んできており、今までどおり更に推進しようと思っているところである。

将来にわたり、当院を安定的に維持、継続して運営していくためにも、忌憚ないご意見、御指導をいただきたく思う。

本日は、よろしくお願ひしたい。

2 議題

（ア）高松市病院事業経営健全化計画（令和3年度実績）に係る総括評価について

経営企画課長 説明

(会長)

早速評価に移るが、今日は一つ一つ項目ごとに掘り下げて評価したい。

「高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化」について、委員全員が「計画どおり順調である」との評価で一致しているため、このままの評価とする。

「医師確保機能の強化」について、この項目については、委員の意見が分かれているところであるが、「やや遅れている」と評価された方の意見をお聞きしたい。

(委員)

目標を達成できたかどうか重点を置いて評価した。医師確保に向けて努力されていることは承知しているが、初期臨床研修医の受入、医師の増加がなかったことから、「やや遅れている」との評価とした。

(委員)

医師確保については、いずれの病院も抱えている非常に難しい問題であることは承知しているが、いかに差別化するか、いかに魅力を作って医師確保に繋げるか、その辺りをもう少し工夫していただきたいとの思いから、「やや遅れている」との評価とした。

(委員)

何かもう少し、人材確保の方法があったのではないかと思い、「やや遅れている」との評価とした。昨今、若者は、理屈よりも直感的だということを知る。インスタグラム等を活用することも一方策なのではないか。

(委員)

人材確保に関して、たくさんの研修医を集められている病院と、そうでない病院とを比較してみると、たくさんの研修医を集められている病院では、我々が想像している以上に、応募する側の意見が取り入れられている。また、その意見を募るために、WEBを利用する等、工夫をしている。みんなの病院におかれても、人材を確保するためにはどうすべきかを検討していかなければならない。

(会長)

医師確保機能の強化について、プロセスがどれだけ工夫されたのかがポイントになってくると思うが、医師確保機能の強化という点について、どのように機能強化を図ったのか。

(病院長)

医師確保機能の強化の中で、初期臨床研修医の獲得は、より重要な要素になる。初期臨床研修医確保の取組については、「レジナビ」という、研修医が集まる各医療機関の品評会のような

ものがあるが、それに参加した。その他、香川大学医学部から、学生を受け入れ、当院の研修機能、指導体制をアピールした。また、先程、SNS等の話があったが、当院のホームページに、研修医が閲覧できるバナーを設置している。フェイスブックも活用し、適宜情報発信に取り組んでいる。ただ、研修医の意見を聞くと、やはりアピールが少し足りないのではないかという思いもあり、今後、もう少し、WEBサイト、SNS等を活用し、現在の学生にマッチする情報を発信していきたい。もう一点、ハード面として、卒後研修センターというスペースを設置することで、初期臨床研修医獲得に繋がるのではないかと考えている。今後も学生、研修医の意見も取り入れながら、適切に改善できるよう、努めてまいりたい。

(委員)

全国から人を集めるには、みんなの病院の関連サイトに辿り着くことが重要である。そのためには、若者が閲覧しているSNSからの誘導が一つの道筋になる。そこに意識を向けることが重要である。このようなことを踏まえ、もう少しWEBマーケティングを研究してみてもどうか。

(委員)

高松市内には、高松赤十字病院、香川県立中央病院があるが、そこへ行かずにみんなの病院へ行きたくなるような売り、魅力を作るべきである。他病院との差別化が図れるようなものを是非、知恵を絞り、改善に繋げてほしい。

(会長)

先日、他県の市立病院において、医師確保問題について、「中堅医師をいかに育成していくか」というテーマで経営協議会があり、これは、10年、20年かかる話ではあるが、それをやりたいということが宣言された。臨床研修医に目が行きがちではあるが、市民に密着した医療を提供していく中で、10年がかりで中堅の医師を育成していくという視点があってもいいのではないかと感じた。是非、みんなの病院におかれても御一考いただければと思う。

他の項目は非常に評価が高い。それらこそ、みんなの病院の売りにすべきところであろう。これらをもっとわかりやすいように、目につきやすいように、情報発信に努めてほしい。「医師確保機能の強化」については、あえて厳しく、「やや遅れている」としたい。

「メディカルスタッフの確保と機能の強化」について、委員の皆様は、「おおむね順調である」との評価となっているが、何か意見はあるか。

(委員)

看護師の離職については、常々、話題に挙がるが、今朝の地方紙に、香川県立中央病院の取り組みが紹介されていた。内容は、夜勤に看護師アシスタントを採用しているというものであった。夜勤の看護師の負担を軽減できるような工夫が掲載されていたが、看護師になろうとしている人、また、現在、看護師の人が目にすると、就業について前向きに捉えるのではないか。

みんなの病院では、夜勤の時に、このような取り組みはされているのか。

(看護局長)

夜間看護補助者については、当院でも11月から導入している。各病棟、特殊なところを除いては、2～3名、準夜勤で就いていただいている。無資格者なので、昼間にしなくても良いような、補助的なところを担っていただいているが、人がいるということで、看護師の精神的な余裕に繋がっていると感じている。

(委員)

そういった前向きな取り組みも、是非、外に向かって情報発信されたい。

(会長)

「メディカルスタッフの確保と機能の強化」については、取組についてもっと広報していただくことを文面に加え、評価としては、「おおむね順調である」としたい。

「医療安全の強化」について、総括評価として、「おおむね順調である」となっているが、留意点を設けており、評価も割れているが、この点について何かあるか。

(委員)

針刺事故について、防止に向けて、何か工夫はしているのか。

(看護局長)

昨年度の針刺事故件数は、12件であった。12件が多いのか少ないのか、検証すべく、資料を探したところ、2014年に、労働安全衛生総合研究所が、3県にまたがり調査したものがあつた。全国規模の調査ではないが、それによると、100床あたり10件程度が平均的で、全血採血の件数に比例するのではないかとのことであつた。また、近隣の急性期病院に確認したところ、当院と同程度の件数であつたことから、当院も平均的な件数であると言える。とは言え、できるだけ減少させたいため、今後も一つ一つ原因を分析することが重要だと思っている。針刺事故の原因は、看護師は、「片付けの際に落ちたものを素手で拾った際、リキャップした」等のルール違反、医師は、「手術中の受け渡し作業時のヒューマンエラー」が主であつたため、今後、対策を検討したい。目標0件のところ、皮膚粘膜曝露も含め15件であつたため、厳しく自己評価したが、あまり数字に過敏になりすぎると、報告しなくなることも考えられるため、今後、目標のたて方も再考しなければならないと感じている。

(会長)

患者の安全はもとより、職員の安全も守らなければならないことから、医療安全についての評価は厳しくあるべきだと考える。全体的に、医療安全について、様々な取組をされており、その取組については高い評価がされているが、やはり事故という事実を捉え、本来なら「計画

どおり順調である」としても良いところ、「おおむね順調である」としたいがどうか。

(委員)

ヒューマンエラーは理解できる。起こるたびに話し合い、マニュアルを見直すしか方法はない。繰り返される事故に対し、向き合っているのものでそれで良いと思う。

(委員)

医療安全についての研修にも注力されており、十分な対策は取られていると理解している。職員の業務量は適正か、動線は適切か等、ヒューマンエラーに至る土壌を再度見直し、目標に近づけるように更なる努力を期待する。

(会長)

医療安全の強化については、「おおむね順調である」とし、留意点として、職員の安全は最優先で進めていっていただきたいと記すこととする。

「医療品質の向上」について、「おおむね順調である」と委員の意見は一致しており、このままの評価とする。

「災害医療機能の強化」について、新型コロナウイルス感染拡大も一種の災害であり、これに全職員が一丸となって取り組まれた。委員の意見も一致しているため、「おおむね順調である」とする。

「チーム医療体制の充実」について、非常に多くのチームが評価の対象になっており、全体的に、新型コロナウイルス感染症の制約がある中で、多くの取組をされた。委員評価は、「計画どおり順調である」と「おおむね順調である」と、評価は分かれているが、何か意見はあるか。

(委員)

各チーム非常に努力のあとがうかがえる。緩和ケアチームが目標に達しなかったが、これは自然体でも良いものだと思う。全体的に非常に努力されており、高く評価できる。

(委員)

コロナ禍にあるため、チーム活動の開催数を増加させることは難しかったことと推察する。十分努力されているものと評価する。

(会長)

「やや遅れている」と自己評価されている項目はあるが、これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、やむを得ない状況であった。新型コロナウイルス感染症の制約がある中、努力されたあとが見える。良くする会としては、「計画どおり順調である」としたい。

「市民との信頼関係の強化」について、新型コロナウイルス感染症の制約がある中、努力されていると委員の意見は一致しており、「計画どおり順調である」としたい。

「患者の視点に立ったサービスの提供」について、委員の評価は、「計画どおり順調である」が多い。患者満足度調査の資料表記について、満点点数を表記した方が分かりやすいと思うため、今後、注意されたい。また、施設利用者は、患者だけではない。そういった方々の満足度を調査することも良い取組になる。みんなの病院は、公立病院なので、是非、そういった視点も持っていただきたく思う。委員会の評価としては「計画どおり順調である」としたい。

「地域医療連携の強化」について、委員評価としては、「計画どおり順調である」となっているが、何か意見はあるか。

(委員)

主要な病院は、どこも、地域の医療機関との連携強化に注力されている。みんなの病院におかれても、他病院から遅れを取ることのないよう、引き続き注力されたい。

(委員)

返書率について、現在、100%に達していないが、しっかりと原因究明し、今後、100%が当然となるように取り組まされたい。

(病院長)

返書率の低さについて、カンファレンスで原因を分析し、情報共有しているところである。現在、受診報告はできているが、その後、治療計画の変更、転科等について報告できていない。今後、報告状況の確認ができる仕組みを構築したい。

(委員)

受診時、退院時の連絡はいただけるのだが、病院として、途中経過も含めて、話し合いたいため、細かく対応してほしい。

(会長)

返書については、地域医療連携の重要な道具だと思う。是非、検討し、改善に繋がりたい。評価としては、「計画どおり順調である」としたい。

「情報発信」について、「計画どおり順調である」と委員の意見が一致しているため、このままの評価としたいがどうか。

(委員)

情報発信について、「計画どおり順調である」と評価させていただいたが、媒体の選択方法は、まだ検討の余地がある。ターゲットに則した世代ごとの発信ツールを選択することで、更なる改善に繋がるのではないか。

(委員)

「市政出前ふれあいトーク」は、みんなの病院独自の取組で、高齢者の中で好評である。高松赤十字病院、香川県立中央病院との差別化にもなっているため、今後とも是非活用されたい。

(会長)

情報発信については、「計画どおり順調である」とし、今後の取組について、より市民に広く伝わるような工夫をしてもらいたい旨、文言として加えたい。

「効率化の推進」について、「おおむね順調である」との委員評価となっているが何かあるか。

(委員)

資料表記について、施設基準の取得を例にあげると、取得した施設基準により得られた効果を具体的な数値で出すことが必要なのではないか。また、ジェネリック医薬品についても、使用数量ではなく、金額ベースで表示した方が良いのではないか。

(委員)

診療報酬の査定について、基本的に査定されるというのは仕方のないことなのか。

(医事課)

診療報酬の査定について、当院としては、査定の対象にならないよう、慎重に請求しているところだが、支払基金と考え方に差異がある。その都度、再請求する等対応はしている。

(委員)

支払基金の審査員として、みんなの病院からは参加していないのか。

(参与)

私が参加させていただいているが、必ずしも保険医療と実際の医療が一致するわけではない。我々の提供する医療が保険で認められない部分があるのはやむを得ない。毎月、査定されたものについては、医療局会において、個々の医師に事情説明する等、療養医療規則を守るべく努力している。当院の診療報酬請求査定率0.29%は、限界に近い数字だと自負している。病院の規模が大きくなるほど、この数値が大きくなることはやむを得ない。

(会長)

確かに、0.29%というのは、決して高い数字ではない。むしろ査定されたことについて話し合いがなされていることが重要である。

この項目は、費用が適切に収益化されているか、投入した努力が成果に結びついているか、購入と算出の関係が適正か、更に、患者にとって効率的な医療が展開されているか等、効率化の意味合いについて触れられていないため、今後の課題とされたい。また、未収金の回収につ

いて、ここで取り上げるべきか疑問に思う。

(委員)

未収金の回収については、民間病院では、より厳しく取り組まれている。個人的には、公立病院も、更に厳しくすべきだと考えている。

(会長)

評価は、このまま「おおむね順調である」とし、文言は少し検討したい。

「管理体制の強化」について、委員評価は、「おおむね順調である」となっており、具体的に働き方改革と年次有給休暇について、触れられているが、何か意見はあるか。

(委員)

職員の年次有給休暇取得日数について、「やや遅れている」と自己評価されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものなのか、慢性的な人手不足によるものなのかで評価が変わってくるかどうか。

(総務課)

年次有給休暇取得日数について、労働基準法の適用を受けることから、年度当初より、計画年休の取得に向けて取り組んでいるところである。ただ、昨年から職員による新型コロナウイルス感染症の感染者、濃厚接触者が多く出たことで、年次有給休暇取得に影響があった。

(委員)

働き方改革は、医師不足解消のためにも、今後重要となる。全国の他病院の事例も参考にしながら、更なる効率化に向けて取り組まれない。

(会長)

年次有給休暇取得について、この項目で取り上げるかどうかは検討させてほしい。年次有給休暇取得より、働き方改革の方法の方が、今後、重要になると思う。また、未収金の回収についても、この項目に入れるべきかどうか。

(委員)

未収金の回収について、医療者がサービスを提供した対価が回収できていないということは、病院の経費として、非常に大きなインパクトを与えることから、事務方の管理体制の一環として、残しても良いと思う。管理体制の強化の中に、雑多な項目が多いため、整理の必要がある。

(会長)

未収金について、回収よりも、防止が重要だと思うため、文面には含めないこととする。評

価としては、「おおむね順調である」としたい。

「一体化の推進」について、「おおむね順調である」と委員評価も一致しているため、このままの評価としたい。

続いて塩江分院に移りたい。

「地域医療の推進」について、一番塩江分院らしさを発揮してほしい項目が、「やや遅れている」との自己評価となっているが、何か意見はあるか。

(委員)

地域医療の推進の具体的な実施内容である、地域包括ケアシステムの構築支援の自己評価が「やや遅れている」となっているが、何故このような評価としたのか。

(塩江分院事務局長)

基本的な項目の件数の減少により、目標値を達成していないことでその評価とした。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、地域連携に係る情報共有の場が少なくなったことも一つの要因であった。現在は、地域連携や地域包括システムの会議も行いつつ、訪問介護件数、リハビリ件数ともに伸びている状況である。

(委員)

塩江分院は、地域医療の推進が主となることから、今回は外部的要因が大きかったことを考慮し、「おおむね順調である」との評価とし、文言として一言付け加えてはどうか。

(会長)

良くする会としては、「おおむね順調である」との評価とし、文言で留意点を付け加えることとする。

「医師の確保機能の強化」について、「おおむね順調である」との評価で委員の意見が一致しているため、このままの評価としたい。

「スペシャリストの育成」について、認知症ケア専門士、介護支援専門員の資格取得が十分でなかったことを重く受け止め、更に注力されることを期待し、「やや遅れている」との評価としたい。

「医療安全の強化」について、計画に関して自己評価も全て「おおむね順調である」以上となっていることから、総括評価としても「おおむね順調である」としたい。

「医療品質の向上」について、委員評価は「おおむね順調である」で一致しているため、このままの評価としたい。

「チーム医療体制の充実」について、具体的な実施内容の内、地域包括ケア推進チームの取組の自己評価が、唯一、「やや遅れている」となっている。さらに注力されたいことを文中に加えたい。ほかに何かあるか。

(委員)

私は、以前、塩江分院の他職種で訪問する地域包括ケア推進チームの活動を、地方におけるチーム医療の取組として、他病院に紹介したことがある。その取組の自己評価が、「やや遅れている」となっていることは非常に残念である。今後、世間に誇れる立派なチームとなることを期待する。

(塩江分院事務局長)

地域まるごと医療の一環として、他職種の参加により、地域住民との連携を推進する塩江地区ケア会議があるが、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、それが開催できなかった。今後は、積極的に取り組んでまいりたい。

(委員)

前年度は、コロナ禍にあり、やむを得ない状況であった。今後は、是非、塩江分院の得意技というようなキャッチフレーズで、塩江地域住民との連携強化に取り組まれない。

(委員)

地域包括ケアについては、どこの病院も工夫して取り組まれている状況である。市民に対し、アピールすることも重要である。

(会長)

アピールについては、更に積極的に取り組まれない。評価は、「おおむね順調である」とする。

「市民との信頼関係の強化」について、自己評価も「やや遅れている」とされた項目が多く、委員評価も「やや遅れている」と評価された方が多いが、何か意見はあるか。

(委員)

厳しく自己評価されている印象である。文言を少し工夫してはどうか。

(委員)

私は、みんなの病院の近隣に住んでいるが、地域住民からみんなの病院の評価は高い。このことから、市民との信頼関係は強いと感じている。新型コロナウイルス感染拡大により、みんなの病院の良さが再確認できたと感じている。

(委員)

私は、退院患者への近況確認率、退院調整を要する患者等への実施率の項目を重要視し、「計画どおり順調である」との評価とした。この項目が高い評価となっていることは、信頼関係についてしっかりと努力されていると感じた。「やや遅れている」と自己評価されている項目もあるが、それを凌駕するくらいの退院時の手厚さがあると感じた。

(会長)

自制的に厳しめの自己評価であろうという前提の中で、実際には、信頼関係は、「おおむね順調である」としたい。新型コロナウイルス感染症の影響で、制約のある部分もあり、計画に至らなかった項目があるが、今後、その経験を活かしながら、さらに取り組みを進めていかれることを期待する。

「情報発信」について、「計画どおり順調である」との総括評価となっているが何かあるか。

(委員)

ホームページの作りと情報の取りまとめのありように着目しているのだが、みんなの病院と塩江分院で、相互に連携しているというような見せ方ができていない。病院局として、管理組織が同じはずだが、そこがWEBサイトから見て取れない。せっかく分院なのであれば、みんなの病院と連携が取れると、みんなの病院の分院としてのメリットも発揮できるのではないか。

(会長)

塩江分院は、市民病院であることに重点を置き、高松市全体に対しての発信について更に注力されることを期待し、「おおむね順調である」と評価を下げ、文言で一言付け加えたい。

「効率化の推進」について、何か意見はあるか。

(委員)

未収金については、大きい病院は、いずれも抱えている問題であるが、それに対して、国民の理解は低い。未収金の回収は難しいというのが現状であることから、項目から外しても良いではないか。

(委員)

未収金の額ほどの程度なのか。

(塩江分院事務局長)

件数として4件、金額として7万円程である。死亡、行方不明、生活保護受給中等により、回収は困難な状況である。

(委員)

本人が亡くなって、相続人からも回収が難しい場合は、未収金として残すのではなく、貸倒損失という形で処理する方が適切なのではないか。

(会長)

未収金の会計処理について、是非、検討し、適切な方法で進めてほしい。評価としては、「おおむね順調である」とし、文言について、未収金については取り除くこととしたい。

「管理体制の強化」について、「おおむね順調である」とする。

「一体化の推進」について、何かあるか。

(委員)

塩江分院は、高松市の中心部から随分距離がある中、地域密着型の病院という位置づけで存在しており、そのバックアップとしてみんなの病院が控えている。その安心感が強調され、良い仕組みになっている。みんなの病院も、高松市の中心地から少し離れているが、逆に、その立地を活かし、市街地から離れた人たちに優しい取組を実施し、連携を強化してほしい。

(会長)

市街地から離れた地域は、塩江分院に限らず、高松市内に多々あると思う。そういった所のモデルになるよう、積極的な情報提供、関わりを、みんなの病院を利用しながら進めていただきたい。

以上で個別の総括評価を終了する。全体の総括については、本日の協議を踏まえ、最終案を作成することになるが、その作業については、一任いただきたい。以上で、令和4年度第2回高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 15:00